



日本のまんなか
水と緑といで湯の街渋川市

令和3年3月第1回市長定例記者会見

- ・日時 令和3年3月1日(月)
午後1時
- ・場所 市役所本庁舎記者会見室

- 1 東日本電信電話株式会社群馬支店と多分野連携協定の締結式を開催します
(資料1)
- 2 アートフェスティバル「SHIBUKAWA ART RELA 2020
IN IKAHO」を実施します(資料2)
- 3 デジタル化の推進及び市民の利便性の向上を図るため
窓口でのキャッシュレス決済を始めます(資料3)
- 4 空き家を地域資源として有効活用と適正管理を進めるため
渋川市空き家利活用促進パンフレットを配布します(資料4)
- 5 「令和2年度渋川市PR動画コンテスト」優秀賞が決まりました(資料5)
- 6 共生社会実現に向けた中心市街地店づくりセミナーを開催します(資料6)
- 7 渋川の偉人展第7弾「渡辺啓助顕彰展」を開催します(資料7)

○次回開催予定

日時：令和3年3月5日(金)午後2時～

場所：本庁舎記者会見室市議会

市長の主な週間日程

月 日	時間	件 名	場 所	所 管
3月1日(月)	9:00	庁議	庁議室	秘書室
	13:00	東日本電信電話(株)群馬支店の多分野連携協定締結式	記者会見室	政策創造課
	13:00	市長定例記者会見	記者会見室	秘書室
3月2日(火)	10:00	3月市議会定例会:開会、議案上程	議場	議会事務局
3月3日(水)	10:00	3月市議会定例会:議案上程	議場	議会事務局
3月4日(木)	10:00	総務市民常任委員会	第1委員会室	議会事務局
3月5日(金)	9:00	退職者辞令交付式	市長室	人事課
	14:00	市長定例記者会見	記者会見室	秘書室
	16:00	さとう麻衣さん(渋川市出身シンガーソングライター)市長表敬訪問	市長応接室	秘書室
3月6日(土)				
3月7日(日)	10:30	桐生市市制100周年記念式典	美喜仁桐生文化会館	秘書室
3月8日(月)	10:00	予算常任委員会	大会議室	議会事務局
	12:15	渡辺啓助顕彰展オープニングセレモニー	市民ホール	生涯学習課

資料1

担当：総合政策部政策創造課 課長 生方 清三郎 電話0279-22-2401 内線2420

東日本電信電話株式会社群馬支店と 多分野連携協定の締結式を開催します

渋川市は、ICTを活用した地域社会の発展と活性化、市民向けサービスの向上による魅力的なまちづくりに資することを目的として、東日本電信電話株式会社群馬支店との多分野連携協定を締結するため、令和3年3月1日(月)に締結式を開催します。

1 趣 旨

ICTを活用した地域社会の発展と活性化に向け、多分野において連携及び協力するため、東日本電信電話株式会社群馬支店との多分野連携協定を締結するものです。

2 連携協力事項

多分野における連携協力により、地域社会の発展と活性化を図ります。

- (1) 観光振興に関すること。
- (2) 庁内業務効率化、DX推進に関すること。
- (3) 子ども教育の充実に関すること。
- (4) 防災及び災害対策に関すること。
- (5) その他甲乙両者が合意した事項に関すること。

3 協定締結式

(1) 日 時 令和3年3月1日(月) 午後1時から

(2) 場 所 渋川市役所本庁舎2階 記者会見室

(3) 内 容

- ・開会
- ・出席者紹介
- ・協定締結（協定書朗読、協定書署名、記念撮影）
- ・あいさつ
- ・閉会

(4) 出 席 者

- ・東日本電信電話株式会社群馬支店
群馬支店長 徳永 健太郎（とくなが けんたろう）
副支店長 岩田 康弘（いわた やすひろ）
第一ビジネスイノベーション部グループ長 平沼 邦光
（ひらぬま くにみつ）
- ・渋川市
市長、市長戦略部長、総務部長、総合政策部長、政策創造課長

資料2

担当：市民環境部市民協働推進課 課長 生方 茂樹 電話0279-22-2463 内線4314

アートフェスティバル「SHIBUKAWA ART RELA 2020 IN IKAHO」を実施します

渋川子ども若者未来創造プロジェクトによるアートフェスティバル「SHIBUKAWA ART RELA 2020 IN IKAHO」を、令和3年3月13日(土)と14日(日)に、伊香保温泉の旅館などを会場にして開催します。

1 概要

「令和2年度提案型市民協働事業」で採用となった、渋川子ども若者未来創造プロジェクトによるアートフェスティバル「SHIBUKAWA ART RELA 2020 IN IKAHO」を、伊香保温泉の旅館などを会場にして開催します。

2 アートフェスティバルについて

昨年12月に、渋川地域の昔ばなしや伝承を聞き、プロアーティストから表現方法を学ぶワークショップを開催しました。このワークショップに参加した市民が作り上げた作品を、伊香保温泉の旅館などで展示します。

また、伊香保地区の伝承「伊香保姫」の語りを聞くワークショップや、こけしの絵付け体験ワークショップも開催します。

3 開催日時

令和3年3月13日(土)、14日(日)
両日とも午前10時～午後5時

4 開催会場・内容

(1) いかほ秀水園

- ・市民ミュージカル（平成30年度「ばんやしろしろ」、令和元年度「ばんやくらぐら」）企画展示
- ・新作市民ミュージカル「くれてほろほろ」の上映会

(2) 千明仁泉亭

- ・市民制作アート作品の展示
- ・伊香保地区の伝承「伊香保姫」語りワークショップ

(3) ホテル松本楼

- ・創作こけしの展示（(有)藤川工芸制作）

(4) ホテル木暮

- ・和紙細工展示（赤城町町田さん制作）

(5) 処々や

- ・こけしの絵付け体験ワークショップ
- ・ルワンダとの国際交流の企画展示

(6) オンラインまち歩き

- ・Google Mapを利用したオンラインでのまち歩き

※上映会やワークショップに参加するには、パスポートの購入が必要です。

5 パスポート料金 500円（当日、開催会場にて販売）

6 市民への周知

- (1) 3月1日号広報紙への掲載
- (2) 市ホームページへの掲載
- (3) アートフェスティバルのチラシを市有施設へ配置予定

7 渋川子ども若者未来創造プロジェクトについて

主催団体である渋川子ども若者未来創造プロジェクトは、平成30年度にも本市の提案型市民協働事業で採用され、「魅力ある地域づくり」を目的としたミュージカル公演を過去2回、実施しています。

8 記者会見出席者

- ・飯塚 欣彦（渋川子ども若者未来創造プロジェクト 事務局長）

参考

提案型市民協働事業について

「提案型市民協働事業」は、ボランティアグループや地域づくり団体などが、市が募集するテーマに対し自主的かつ自発的な事業や取組を新たに立ち上げること（スタートアップ）に対して、市が補助金を交付するものです。

なお、今年度は渋川子ども若者未来創造プロジェクトへ補助金50万円を交付見込みです。

令和2年度 渋川市提案型市民協働事業「アートでつながる heART to heART プロジェクト」

SHIBUKAWA ART RELA 2020 IN IKAHO

本プロジェクトの一環として、渋川地域に伝わる伝承・言い伝えをテーマとしたアート作品を通じて渋川地域の魅力再発見・発信を行うとともに、アートと観光を結び付け、地域活性化に貢献することを目的とした「SHIBUKAWA ART RELA 2020in 伊香保」を開催いたします。

“ART RELA (アート リラ) には、「アートで人と人がつながり、多様な価値観を認め合っていく」というメッセージを込めています。

渋川地域の伝承や歴史をテーマに市民の皆さんから自由公募した作品、

渋川地域の昔ばなしや伝承を聞くWS(昨年12月)に参加、それを元にプロアーティストから学んだ表現方法で各々が作り上げた作品を、伊香保温泉地域に展示します。

地元伝承の「伊香保姫」語りを聞いて、こけしの絵付け体験も楽しめます。

○イベント概要:

- ①市民制作のアート作品の展示
- ②渋川ゆかりのアーティスト作品の展示(和紙細工/漫画/創作こけし「伊香保姫」ほか)
- ③渋川ミュージカル企画展示(「ぼんやしろしろ」「ぼんやくらぐら」、新作「くれてほろほろ」上映会)
- ④国際交流企画展示(ルワンダ交流企画)
- ⑤体験 WS コンテンツ(こけし絵付け/伝承語り)など

伊香保の春、「アートのまち歩き」を楽しみませんか！

■日時 令和3年3月13日(土) 14日(日)

午前10時～午後5時

会場 いかほ秀水園、千明仁泉亭、ホテル松本楼

ホテル木暮、処々や

内容 オンラインまち歩き MAP を利用してまち歩きを
楽しめます。体験・上映会・語りは、パスポートが必要

パスポート料金 500円(各会場で販売)

(当日限定の特典付: 伊香保温泉露天風呂入浴料無料など)



漫画(武田泰明さん作)



ミュージカル「くれてほろほろ」上映



創作こけし絵付け体験



和紙細工(赤城町町田さん作)

問い合わせ先

渋川子ども若者未来創造プロジェクト 事務局

飯塚(携帯 090-2315-5733) メール: shibumyu@gmail.com

資料3

担当：総合政策部政策創造課 課長 生方 清三郎 電話0279-25-8414 内線2420

デジタル化の推進及び市民の利便性の向上を図るため 窓口でのキャッシュレス決済を始めます

渋川市では、デジタル化の推進及び市民の利便性の向上を図るため、令和3年4月1日から窓口における手数料の支払いに「PayPay」及び「LINE Pay」によるキャッシュレス決済サービスを始めます。

なお、3月を準備期間と位置付けて、3月15日から試験的に運用を開始し、4月からの本格稼働に向け準備を進めます。

1 目 的

市役所本庁舎や各行政センター等の市民生活に密接な窓口における手数料の支払いにおいて、QRコードの読み取りによるキャッシュレス決済サービスを始めます。

社会全体が進むキャッシュレス化に対応するとともに、新型コロナ感染対策の新しい生活様式に合った非接触型の支払方法を導入することで、デジタル化の推進及び市民の利便性の向上を図っていきます。

2 導入するキャッシュレス決済サービス事業者

- (1) P a y P a y 株式会社
- (2) L I N E P a y 株式会社

3 対象窓口

- (1) 本庁舎 税務課、納税課、市民課
- (2) 各行政センター
- (3) 渋川駅前証明サービスコーナー

4 対象手数料

戸籍、住民票の写し、印鑑登録証明書、所得証明書、納税証明書 など

5 決済方法 QRコード決済

6 利用開始日

令和3年3月15日(月)から試験運用を開始し、4月1日(木)に本格稼働します。

7 そ の 他 領収証書は発行されません。

資料4

担当：総合政策部政策創造課 課長 生方 清三郎 電話0279-22-2401 内線2420

空き家を地域資源として有効活用と適正管理を進めるため 渋川市空き家利活用促進パンフレットを配付します

「不動産」である空き家を「負の動産」としないために、「渋川市空き家利活用促進パンフレット」を新たに作製しました。このパンフレットを市内にある空き家所有者などへ配付することで、空き家の適正管理と利活用を促進します。

1 パンフレットの内容

- (1) 空き家の所有者責任及び管理について
根拠の法律やチェック表による空き家の管理状況と管理費用の確認
- (2) 所有する家屋・土地の権利関係と相続について
事前に、権利関係を調べ、相続について相談し、ページに書き込む
- (3) 空き家の解体、売却について
- (4) 近隣の空き家に係る対処について
- (5) 空き家に関する自治体等相談窓口・専門家等の相談窓口

2 期待する効果

- (1) 空き家発生抑制
空き家の予防を主眼とし、所有者が死亡したり、認知症等意思疎通ができなくなった時のため「持ち家の処分を後回しにせず、健康なうちに家族とともに考えてほしい」という視点で、事前に空き家所有予定者を啓発します。
- (2) 空き家の適正管理
チェック表を設け、所有者・相続人自らがチェック表を記入することで、家屋の状況を把握し、管理方法について認識してもらいます。
- (3) 空き家の利活用
書き込むページを設け、不動産の内容・権利関係・家系図を記載することで相続の手続きの必要性、さらには相続登記義務について理解してもらいます。
また、相談窓口及び空き家活用協力事業者一覧（司法書士・行政書士・宅地建物取引士・土地家屋調査士・不動産鑑定士）を掲載し、相談先を提示することで、具体的解決に向けて行動できます。

3 発行部数 1,800部（令和3年3月1日発行）

4 配付対象者 空き家所有者もしくは空き家所有予定者等
※令和2年度空家等実態調査による空家等認知件数（中間報告）
＝約1700件（令和2年11月現在）

5 啓発方法（予定）

- （１）市ホームページ・広報にパンフレット発行について掲載し、希望者を募り、配付します
- （２）市ホームページ上にデータ（PDF形式）を掲載し、ダウンロードを可能とすることで、市外の空き家所有者を含め、広く啓発します
- （３）空き家啓発セミナーでパンフレット活用講習を実施します
- （４）空き家相談の参加者に配布します
- （５）空き家活用協定締結団体に依頼し、関係する方に広く配付します

資料5

担当：市長戦略部秘書室 室長 小野 宏伸 電話0279-22-2182 内線2411

「令和2年度渋川市PR動画コンテスト」 優秀賞が決まりました

映像による渋川市の魅力の発信を進めるために実施した「渋川市PR動画コンテスト」について、5つの作品が優秀賞に選定されました。
入賞者の表彰式は、令和3年3月10日(水)に開催します。

1 概 要

市が交流人口の拡大や移住促進を目的に、映像による渋川市の魅力の発信を進めるために実施した「渋川市PR動画コンテスト」について、39人から計45作品の応募がありました。3次に及ぶ審査の結果、5つの作品が優秀賞に選定されました。

今後、優秀賞作品については、市公式YouTubeに掲載するなど、市のシティプロモーションに活用します。

2 審査方法

(1) 第1次審査

担当課（市長戦略部秘書室職員）による審査。応募要件を満たしているかなどを確認し、第2次審査候補作品として、45作品から10作品を選定。

(2) 第2次審査

庁内グループウェアのアンケート機能を利用し、アカウントを有する市職員全体による投票により、最終審査候補作品として7作品を選定。

(3) 最終審査

市の商工観光事業などの関係者8名を審査員として、投票による最終審査を実施。得票数上位5作品を優秀賞に決定。

3 優秀賞作品（敬称略）

(1) タイトル：赤城山西麓の春を楽しむ

作 者：田部井 千圭広（市内在住）

内 容：群馬県の天然記念物に指定されている「ヒメギフチョウ」の生態を紹介した動画です。関東地方では、赤城山の一部でしか見られない市の宝を山の春の様子と併せて紹介しています。



(2) タイトル：日本のまんなか癒しの街渋川

作 者：たびぜっと（東京都在住）

内 容：「水とみどりといで湯の街」をテーマにして、へそ地蔵や伊香保温泉、棚下不動の滝などの渋川の魅力をドローン撮影による映像も使用して紹介した作品です。

日本のまんなか

みどりと水といで湯のまち



(3) タイトル：渋川に来てね！

作 者：ザカリー・テート（市内在住）

内 容：伊香保温泉、水沢うどん、へそまつりなどの市の魅力を紹介した作品です。全編が英語のナレーションとなっており、日本語の字幕をつけて多くの人に伝わりやすい作品になっています。



(4) タイトル：日本のまんなか渋川へ行こう

作 者：鏡 琢郎（東京都在住）

内 容：作者が渋川を訪れて感じた「温もり」を伝統、自然、観光の3つの視点でまとめた動画です。こけしが伊香保温泉を散策するストーリーで、伊香保温泉の魅力を簡潔にまとめています。



(5) タイトル：渋川と空と四季

作 者：チーム渋川5年目（市内在住）

内 容：渋川の魅力のうち、作者が最も伝えたかった「渋川の空」をテーマにまとめられた作品です。市の地理的な情報や子育て支援の施策、観光名所を幅広く紹介しています。



4 表彰式

- (1) 開催日時 令和3年3月10日(水) 午後5時30分から
- (2) 開催場所 市役所本庁舎2階 記者会見室
- (3) 内 容 受賞者への賞金と賞状の授与

5 入賞作品の活用

入賞作品は、市公式YouTubeにおいて作品を公開します（令和3年3月1日市長定例記者会見後を予定）。また、イベント等での上映などによるシティプロモーションに活用する予定です。

6 問い合わせ先 秘書室広報戦略係（電話 0279-22-2182）

資料6

担当：産業観光部商工振興課 課長 牧 伸治 電話0279-22-2596 内線4890

共生社会実現に向けた中心市街地店づくりセミナーを開催します

「共生社会実現のまち 渋川市」を商店の立場から推進するため、渋川駅前通り商店街の店主等を対象に、共生社会に対する意識を高めるセミナーを、3月2日(火)に開催します。講師は、2004年アテネパラリンピック ウィルチェアーラグビー日本代表の川村政直さんです。

1 概 要

渋川市は、共生社会の実現に向けた取り組みを推進しています。この取り組みを推進していくためには、社会全体で取り組んでいくことが必要であり、商店の立場からの取り組みも必要です。このことから、『「共生社会実現のまち 渋川市」推進共同宣言』に署名した渋川駅前通り商店街の店主等を対象に、共生社会に対する意識を高めるためのセミナーを開催します。

2 日 時 令和3年3月2日(火) 午後6時～7時30分

3 場 所 辰巳町会館（渋川市渋川1822-21）

4 講 師 川村 政直 氏
(2004年アテネパラリンピックウィルチェアーラグビー日本代表)

5 演 題 共生社会に向けたまちづくり

6 定 員 20人

7 参加費 無料

共生社会実現に向けた 中心市街地店づくりセミナー



渋川市では、誰もが自分らしく生き生きとした人生を送れるよう、共生社会の実現に向けた取り組みを推進しています。この取り組みを推進していくためには、社会全体で取り組んでいくことが必用であることから、この度、「共生社会実現のまち渋川市」推進共同宣言に署名した、渋川駅前通り商店街振興組合の商店関係者等を対象としたセミナーを企画しました。地域住民の皆さんの参加も歓迎しますので、ぜひ、ご参加ください。

■テーマ

共生社会に向けたまちづくり

■日 時: 3月2日(火) 18:00~19:30

■場 所: 辰巳町会館

■講 師: 川村 政直氏
(2004年アテネパラリンピック
ウィルチェアーラグビー日本代表)

■参加費: 無料

■定 員: 20名程度

■対 象: 渋川駅前通り商店街の商店関係者、地域住民の皆さん

■その他: 必ずマスクを着用してご参加ください。また、新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、開催を中止する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

【川村政直氏プロフィール】

1970年生まれ(現在50歳)。23歳の時にバイク事故により首を粉碎骨折(頸椎損傷)し、胸から下の運動機能障がい、知覚障がいを負う。急性期病院、リハビリ病院を経て25歳で在宅復帰し、福祉用具販売会社にて営業として社会復帰する。併せて、障がいスポーツを知り、車いすバスケット、車いすラグビーと出会い、2004年に車いすラグビーでアテネパラリンピック出場を果たした。

お申込みは、下記の必要事項をご記入いただき、FAXまたはメールで
渋川市商工振興課にお願いします 【申込期限: 2月22日(月)】

申込FAX : 0279-22-2132

MAIL : syoukou@city.shibukawa.gunma.jp

※メールの場合は、件名に「3月2日セミナー申込」、本文に「氏名」「住所」「電話番号」を記入してください。

※急な変更が生じた場合、電話等をさせていただく場合があります。また、連絡先は、本セミナー以外の目的には使用しません。

氏 名	
住 所	
電話番号	

問い合わせ先: 0279-22-2596

渋川市産業観光部商工振興課まちなか再生室(渋川市石原80)

資料7

担当：教育部生涯学習課 課長 島田 志野 電話0279-22-2500 内線4950

渋川の偉人展第7弾「渡辺啓助顕彰展」を開催します

渋川市にゆかりのある先人の功績を広く紹介し、郷土の誇りとして後世に末永く継承していくために開催する顕彰展の第7弾として、「渡辺啓助顕彰展 ～渋川で暮らしたミステリー小説家～」を3月8日(月)から開催します。旧制渋川中学校で教鞭をとり、昭和20年代を渋川町で暮らした渡辺啓助氏は、江戸川乱歩や横溝正史、星新一らと交流のあったミステリー小説黎明期の小説家です。

初日の3月8日(月)には、関係者による開催セレモニーを行います。

1 目 的

渋川市にゆかりのある先人の功績に改めて光をあて讃えるとともに、多くの方々にその功績をより深く知っていただき、郷土の誇りとして後世に末永く継承していくために顕彰展を開催するものです。

令和2年12月の木暮武太夫顕彰展に続き、第7回目として、昭和20年代を旧渋川町で暮らした小説家、渡辺啓助氏の偉業に対する功績を讃え開催します。

2 内 容

渡辺啓助氏は、江戸川乱歩や横溝正史、星新一らと交流のあった日本ミステリー小説黎明期の小説家です。三期連続で直木賞候補となり、日本探偵作家クラブ（現・一般社団法人日本推理作家協会）の第4代会長を務めました。顕彰展では、昭和20年代を渋川町で暮らし、そのときに詩を中心とした同人「B文学会」を立ち上げ、渋川の文化の振興に寄与した、渡辺啓助氏の関連資料を展示します。

3 会場と開催時期

(1) 市役所本庁舎市民ホール

令和3年3月8日(月)～18日(木) 午前8時30分～午後5時15分

※3月8日(月)は午後0時30分から。

※市役所閉庁日は除く。

(2) 市役所第二庁舎あじさいサロン

令和3年3月22日(月)～26日(金) 午前8時30分～午後5時15分

4 展 示 品

解説用のパネルや関連書籍、渋川市立図書館所蔵の同人誌「B」のほか、群馬県立土屋文明記念文学館が平成31年に開催した「ミステリー小説の夜明け」で使用した写真パネルを展示予定

※作成した解説用のパネルは、顕彰展終了後に市内の各小中学校で行う巡回展示での使用を予定しています。

5 開催協力

顕彰展の開催にあたり、渡辺啓助氏の子・渡辺東氏、渡辺啓助氏の妻の姪に当たる松井田啓子氏、群馬県立土屋文明記念文学館の協力を得ています。

6 その他

令和3年3月8日（月）の午後0時15分から、市長ほか、関係者を含めた開催セレモニーを市民ホールで実施します。

参考



○日本推理作家協会を立ち上げるための会合

群馬県立土屋文明記念文学館作成の写真パネルより 写真提供：渡辺東氏

渡辺啓助氏略歴

- | | |
|--------------|---|
| 1901年（明治34年） | 秋田県秋田市に生まれる |
| 1925年（大正14年） | 渋川中学校（現・群馬県立渋川高等学校）に赴任する |
| 1927年（昭和2年） | 渋川中学校を退職、九州帝国大学（現・九州大学）に入学する |
| 1929年（昭和4年） | 九州帝国大学在学中に雑誌「新青年」に処女作「偽眼（いれめ）のマドンナ」を発表し文壇デビューする
渋川中学校在職中に知り合った渋川町中ノ町の油商太田屋の娘・君子と結婚する |
| 1942年（昭和17年） | 「密林（ジャングル）の医師」が直木賞の予選候補となる |
| 1943年（昭和18年） | 「オールドスの鷹」と「北西撮影隊」が直木賞候補となる |
| 1945年（昭和20年） | 終戦後に渋川に疎開する |
| 1947年（昭和22年） | 地元の有志とB文学会を立ち上げ、詩誌「B」を創刊する |
| 1954年（昭和29年） | 渋川市より東京都大田区へ移る |
| 1960年（昭和35年） | 日本探偵作家クラブの第6期第4代会長となる |
| 1963年（昭和38年） | 日本探偵作家クラブが社団法人日本推理作家協会となったのを見届け会長を退く
晩年は、小説だけでなく、カラスの絵や詩作品を多く残している |
| 1978年（昭和53年） | 正林堂書店で個展を開く |
| 2002年（平成14年） | 101歳で死去 |